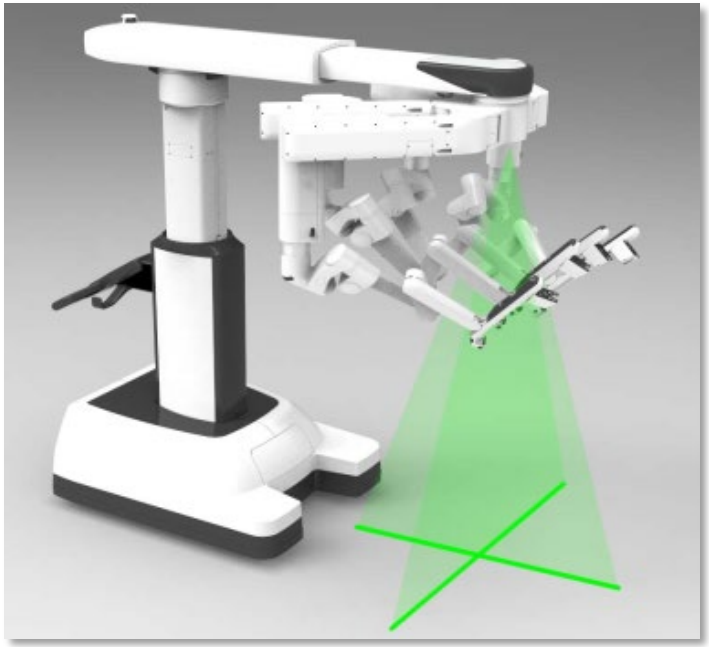
保険適用となった婦人科領域のロボット支援下手術

① 婦人科良性疾患に対する
　　ロボット支援下子宮全摘術

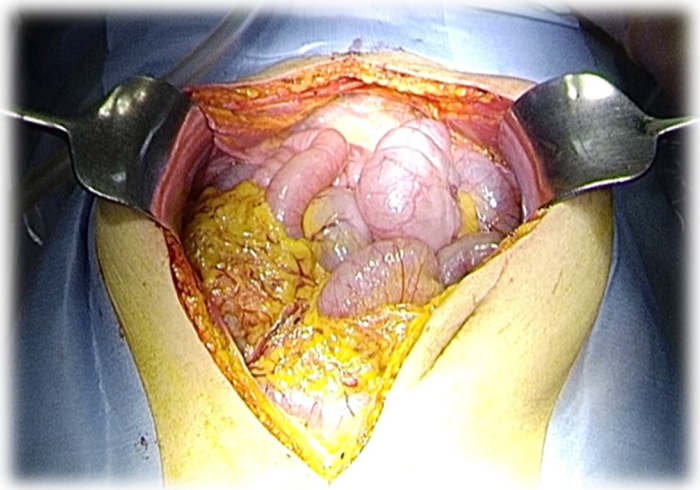
② 早期子宮体がんに対する
　　ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術



開腹手術から内視鏡（腹腔鏡）手術へ

1994年：婦人科疾患に対する腹腔鏡手術の開始

開腹手術

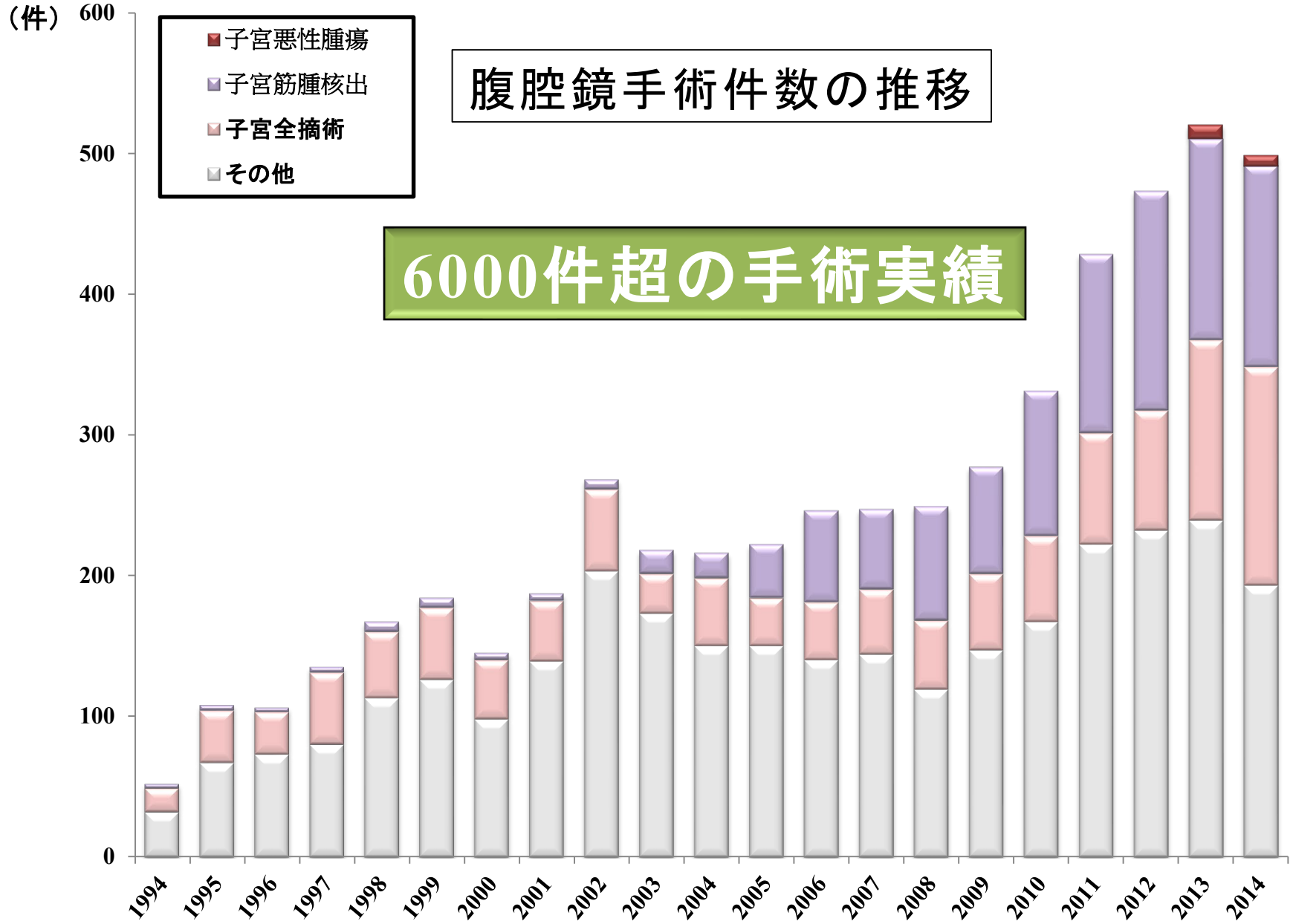


腹壁切開創15～20cm

腹腔鏡手術

腹壁切開創1-2cmを1-4箇所

～当産婦人科教室における低侵襲手術への取り組み～



内視鏡（腹腔鏡）手術からロボット手術へ

2012年：婦人科疾患に対するロボット手術の導入

腹腔鏡手術

ロボット手術

当産婦人科における
ロボット支援下手術の取り組み

2012年4月～

a) 子宮全摘出術（子宮筋腫、子宮内膜症等）

2013年5月～

b) 子宮筋腫核出術

2013年10月～

c) 子宮頸がん根治術

2018年8月～

d) 子宮体がん根治術

保険適用となった婦人科領域のロボット支援下手術

平成30年度（2018年）の診療報酬改定において、手術用ロボット「da Vinci（ダビンチ）」を使用した2つの技術が保険適用となりました。

①ロボット支援下子宮全摘術

⇒対象：婦人科良性疾患の全て（子宮筋腫等）

②ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術

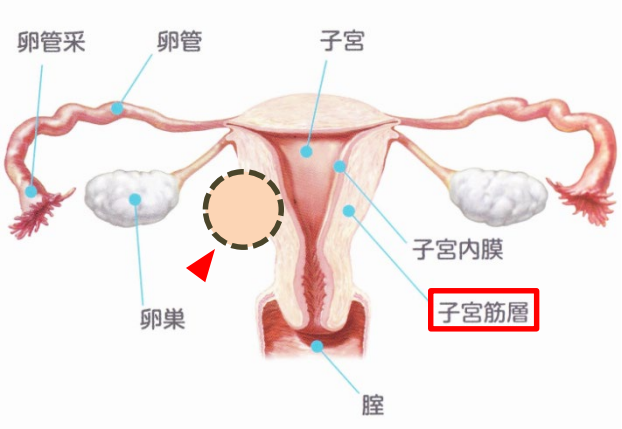
⇒対象：婦人科悪性疾患のうち、子宮体がんに限る

ロボット支援下手術の保険適応となる術式と疾患

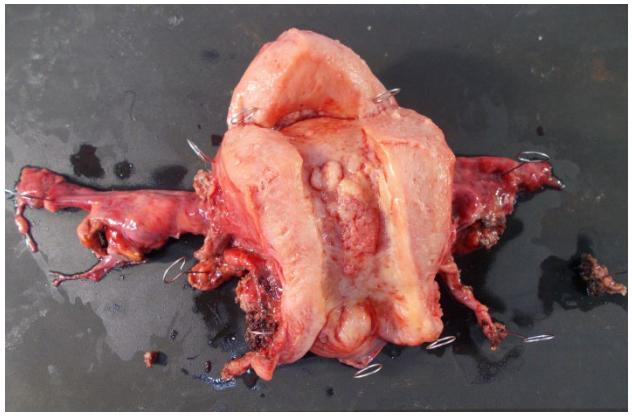
①ロボット支援下子宮全摘術

子宮筋腫

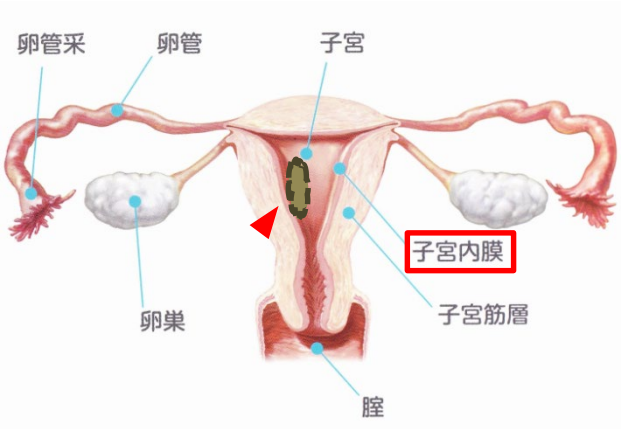
良性子宮疾患の全て
（子宮腺筋症、子宮脱等）



②ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術

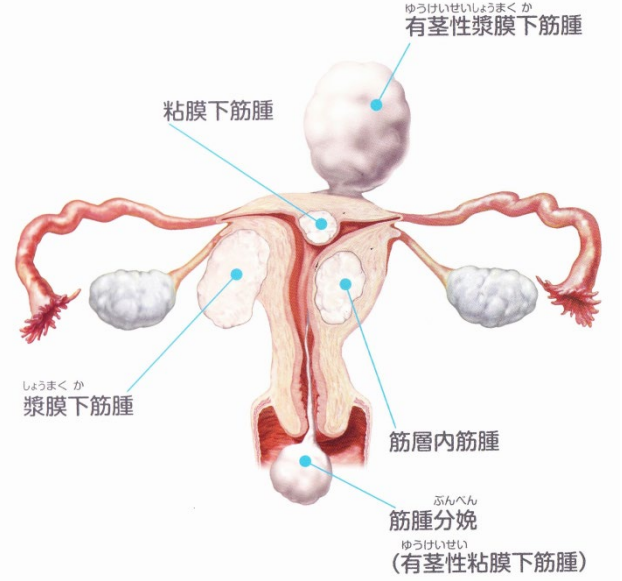


子宮体がん



子宮筋腫

子宮筋腫は，子宮平滑筋を構成する平滑筋から発生する良性腫瘍です。多様な症状を呈し，不妊の原因にもなり得る疾患で、婦人科腫瘍性疾患の中で最も頻度が高い疾患です。30歳以上の女性の少なくとも20～30％、顕微鏡的なものを含めると約75％にみられます。



症状

＜発生部位の違いで、症状が異なる＞

・約半数は無症状で、偶然見つかる

・月経に伴う症状　過多月経、月経困難症

・圧迫症状

　膀胱の圧迫→頻尿

　腸管の圧迫→便秘（稀）

　尿管の圧迫→水腎症（超巨大筋腫や癒着）

・下腹部腫瘤感

・疼痛

・不妊

子宮筋腫に対する手術療法のガイドライン

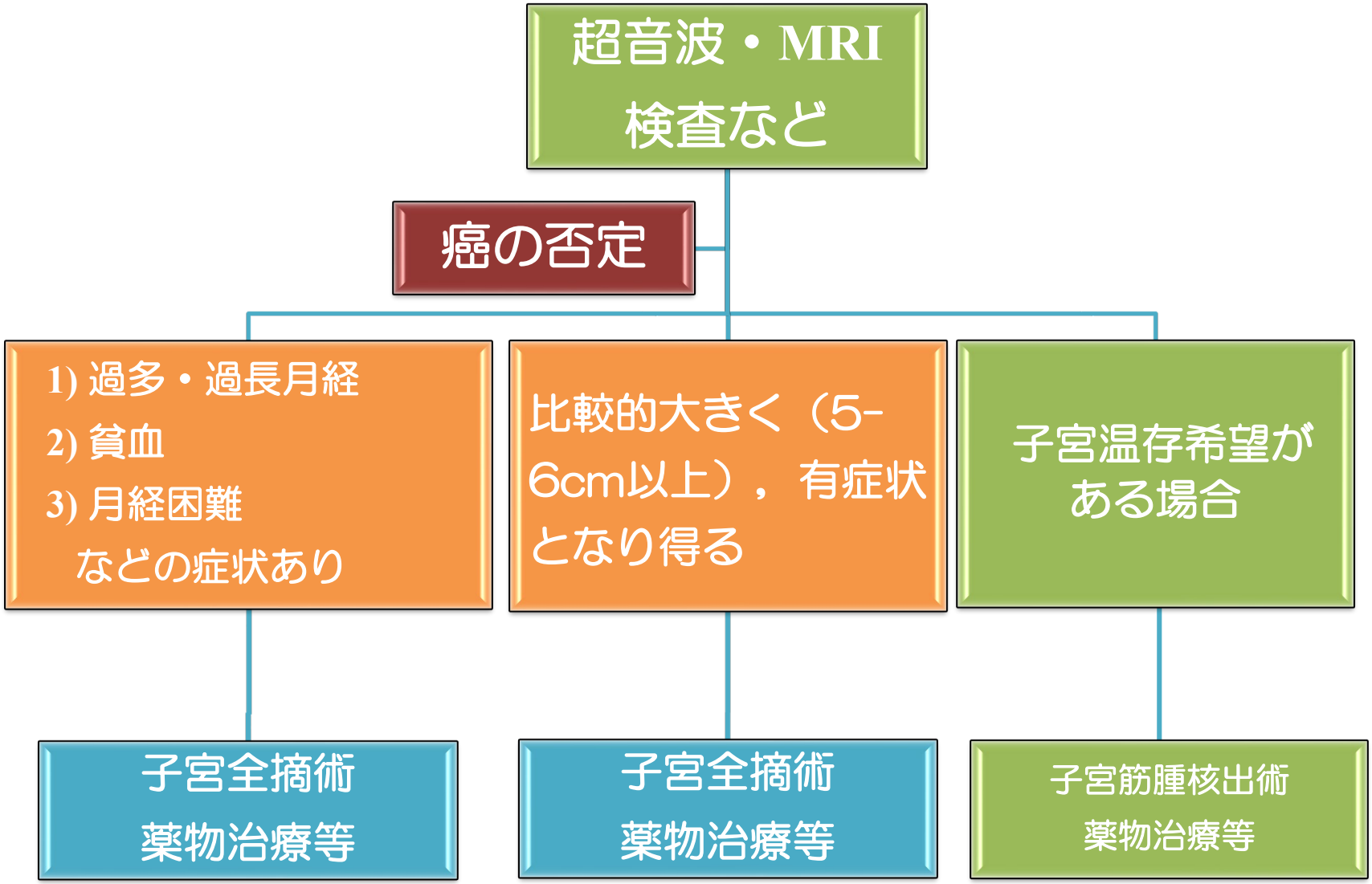
(a) 子宮温存希望・必要が**ない**場合

1. 過多月経、月経困難症、圧迫症状等の症状を有する場合は、原則、子宮全摘出術を行う。⇒ロボット支援下手術
2. 無症状で巨大でない（8cm以内）場合には、経過観察する。
3. 閉経直前の年代ではGnRHアゴニスト療法（偽閉経療法）を行うこともある。

(b) 子宮温存希望・必要が**ある**場合

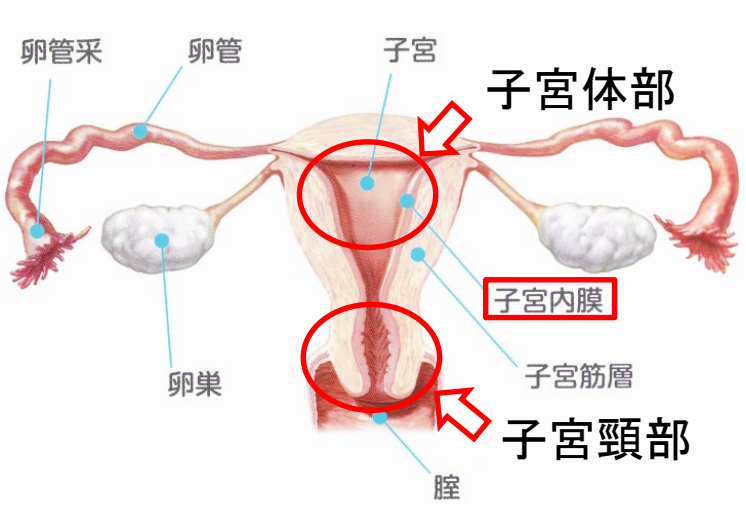
1. 過多月経、月経困難症、圧迫症状、不妊などの症状を有する場合や長径が5-6cmを超えた場合では、子宮筋腫の部位、個数、成長速度、妊娠・分娩の時期を考慮して子宮筋腫核出術を考慮する。⇒ロボット支援下手術（自費診療で可能）
2. 無症状で、長径が5-6cm以内のものであれば、定期的な経過観察も可能である。

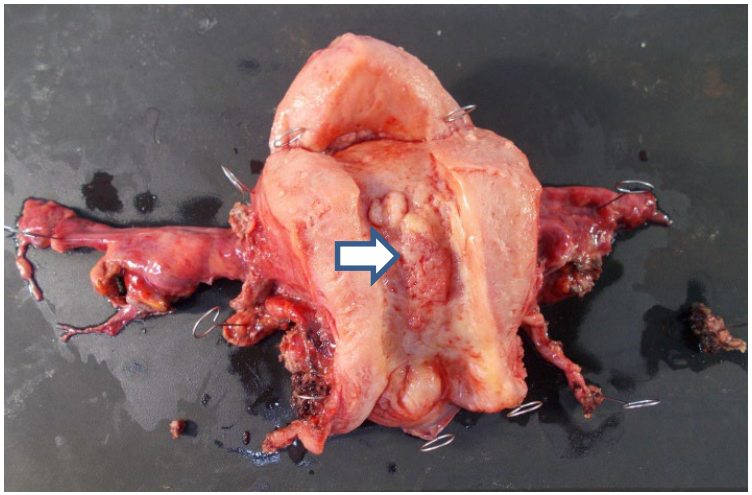
子宮筋腫に対する手術療法



子宮体がん

子宮体癌は、子宮の体部に発生する癌で、そのほとんどは、子宮体部の内側にある子宮内膜という組織から発生するため、子宮内膜癌とも呼ばれています。一方、子宮頸部の上皮から発生した癌が、子宮頸がんです。





症状

- 不正出血がほとんど（約90%）
- 月経不順
- 乳癌を患ったことがある
- 排尿痛や排尿困難
- 性交時痛
- 骨盤領域の痛み

子宮体がんの手術適応

子宮体がんの手術適応や術式は、病期（ステージ）と再発リスク因子によって決定される。

ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術は、病期（ステージ）IA期に対して実施した場合に算定される（保険適応）。

子宮体がんに対する腹腔鏡下手術のガイドライン

1. 子宮内膜異型増殖症や推定I期子宮体がんのうち再発低リスク群に対して奨められる。
2. 推定I・ II期症例のうち再発リスクが中・高リスク群が疑われる場合にも考慮される。

子宮体がんの病期（ステージ）

手術進行期分類（日産婦2011、FIGO2008）

Ⅰ期；癌が子宮体部に限局するもの

IA；筋層浸潤がないか 1/2 未満

IB；筋層浸潤 1/2 以上

Ⅱ期；癌が頸部間質に浸潤するが、子宮をこえないもの

Ⅲ期；癌が子宮外に拡がるが、小骨盤をこえないもの、または所属リンパ節へ拡がるもの

IIIA；子宮漿膜／付属器浸潤

IIIB；膣／子宮傍結合織浸潤

IIIC；骨盤リンパ節and/or傍大動脈リンパ節転移があるもの

IIIC1；骨盤リンパ節転移陽性

IIIC2；傍大動脈リンパ節転移陽性

Ⅳ期；癌が小骨盤をこえるか、膀胱・腸粘膜浸潤、遠隔転移のあるもの

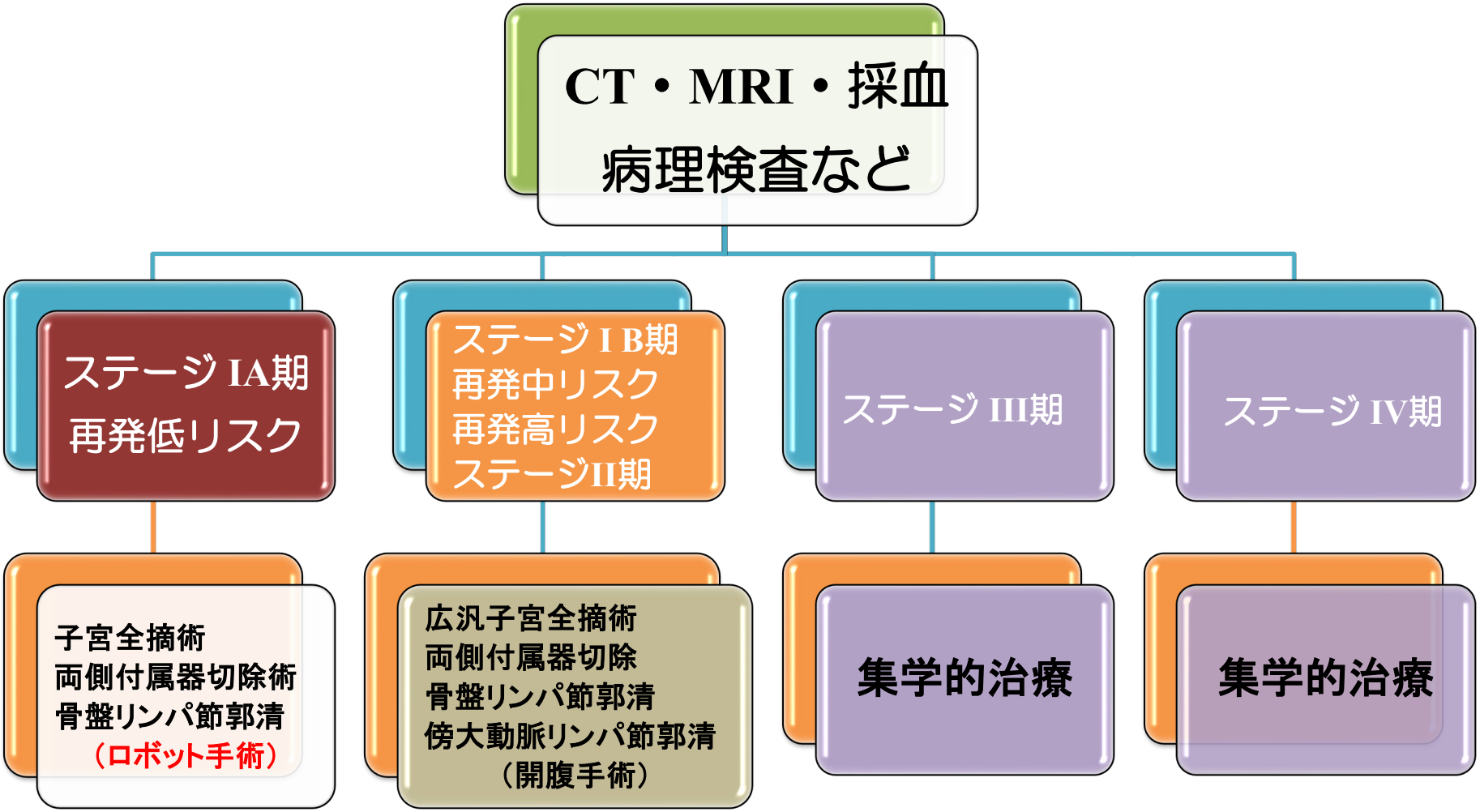
IVA；膀胱／腸管粘膜浸潤

IVB；遠隔転移／鼠径リンパ節転移

子宮体がんの再発リスク因子

因子 / 組織型	筋層浸潤なし	筋層浸潤あり(＜1/2)	脈管侵襲あり	筋層浸潤あり(＞1/2)	頸部間質浸潤あり	子宮外病変あり
類内膜腺癌(G1/G2)						
類内膜腺癌(G3)						
漿液性癌 明細胞癌						

組織型＝癌の顔つき！

再発低リスク群 **（術後治療なし）**	**再発中リスク群** **（化学療法、経過観察）**	**再発高リスク群** **（化学療法、放射線療法等）**

子宮体がんに対する手術療法